

【令和7年度自己評価結果公表シート】

せいいか幼稚園

1. 本園教育目標

【将来幸せになる子、伸びて育てる】を本園の理念に掲げ、【褒め育て長所伸展法】を方針としている。乳幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探し思考する過程を大切にした教育・保育を目指している。また、【幼児の頃こそ本物を】の方針の下、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、乳児クラスのグループ保育など教員との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した乳児保育・幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子ども園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、こども園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	A	毎月の研修や日々の報告を通して子ども園要領の理解を全教職員で、積極的に推進し、それらを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について話し合いを行っている。
状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	A	保育内容を今すぐにできる結果にこだわらず、将来の子どもたちの成長につながるように、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討をし、園の環境を中長期的に更新している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	A	乳幼児の発達の姿を捉える為の研修を定期的に実施するとともに、日々の乳幼児の姿について話し合う機会を毎日の職員会議でもつようにし、教え合える機会を作っている。 不適切保育や通園バス置き去り事故のニュースを受けより一層、子どもたちの安全を守る研修を実施することができた。通園バス安全装置設置時には、実際に装置の取り扱いを車内で行い、マニュアルに追加した。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	A	行事開催後にはアンケートを実施。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組みつつある。 また育児相談を受ける機会を設け、子育てをサポートできるよう毎月園長よりコラムを発信している。 個別面談等も行い保護者の想いを受け止め、全職員で共有し、園全体で取り組めるよう図っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることことができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理	<p>乳幼児施設などで発生する事象ニュースを速やかに情報収集し 他人事でなく本園で同様のことが発生しないよう、引き続きマニアルの理解と実施の徹底する為の職員研修を行い、安全管理の確認を丁寧に行っていきたい。</p> <p>日本赤十字社より講師を招き、職員が実際に一次救命処置や気道異物の除去方法等を学ぶ機会は、今後も継続的に実施していく。</p> <p>不審者対策を施設面での対応を行っているが、ヒヤリハット報告により、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルを徹底していく。</p>
特別支援教育	<p>乳幼児に対応した個別の指導計画の作成を行い、担任だけでなく保育時間内の医師や心理士巡回を行い、話し合いをもちろんがら、加配職員の配置や園全体で個別の支援教育に取り組めるようしていく。</p> <p>また医療・福祉の関係機関との連携をどのようにするかを検討し、せいかぐるープ園「ふたかみの森せいか子ども園」内の療育施設工デュケアルームを利用していく。</p> <p>保護者が希望する訪問支援事業についてはこの後も積極的に来園を受け入れ、連携を図っていく。</p>
園に対する保護者の満足度の把握	<p>建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待することも園像を把握し、現代社会において求められるこども園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。</p> <p>気候変動により、夏の酷暑対策を課題とし、保育参観や行事等の開催時期を変更し、子ども達がのびのびと活動に参加でき、保護者には子ども達の発表の場である行事に安心して参加できるよう工夫しながら開催し、さらに地域に開かれた園になるよう努めていきたい。</p>